

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		631-01-01		
事務事業名		文化財発掘調査事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)		
				連絡先		内線4480		
担当部署名		文化財課		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	款	10	教育費
	施策		3		歴史・文化	項	5	社会教育費
	施策の方向		1		歴史資産を活かしたまちづくり	目	4	文化財保存事業費
事業の概要	対象 (誰を・何を)		市内に存在する埋蔵文化財					
	目的 (どうしたいか)		文化財を保護し、さらにはその活用を積極的に図り、市民をはじめ多くの人たちに本市の個性の一つである豊かな歴史性を周知する。また、文化財を将来へ継承していく。					
	手段 (事業内容)		開発工事等との調整を図り、埋蔵文化財の保護を行う。場合によっては記録保存のため発掘調査を実施する。					

予算・決算額		(単位:千円)			※主な内訳(令和3年度決算)※	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 ・文化財調査委託料 1,289千円 ・写真撮影委託料 858千円 ・印刷製本費 344千円 ・機器借上料 1,936千円 ・消耗品費 173千円 【特定財源】 ・国庫補助金(発掘調査)1,871千円	
当初予算額	事業費	6,767	7,005	6,724		
決算額	事業費	4,653	4,600	—		
	特定財源等	1,210	1,871	—		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	発掘届出・試掘調査依頼書件数	単位	件
指標の説明	発掘届出と試掘調査依頼書の提出件数合計。「令和4年度目標」は過去3ヶ年(令和元～3年度)の平均値を記載。		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	329	315	311
実績	306	334	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	発掘・立会調査件数	単位	件
指標の説明	発掘・立会・試掘調査の件数合計。「令和4年度目標」は、過去3ヶ年(令和元～3年度)の平均値を記載。		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	145	147	154
実績	143	158	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 埋蔵文化財は、その性質上、一度損傷を受けると二度と元には戻すことはできない。工事等で影響を受ける埋蔵文化財については、関係者と事前に協議を重ね極力現状で保全するようにしているが、どうしても支障がある範囲については、必要最小限の発掘調査を行って、記録保存をしている。発掘調査後は出土遺物の整理、検出遺構の精査検討、写真撮影、図面浄書(トレース)等といった作業を経て、その成果を周知・公表するために発掘調査報告書を作成し将来に継承するとともに、調査成果を展示、公開、活用に努めている。		(令和4年度以後の事業実施への改善内容)

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		631-01-02		
事務事業名		石川流域前期古墳発掘調査事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)		
				連絡先		内線4480		
担当部署名		文化財課		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	款	10	教育費
	施策		3		歴史・文化	項	5	社会教育費
	施策の方向		1		歴史資産を活かしたまちづくり	目	4	文化財保存事業費
事業の概要	対象 (誰を・何を)		主として石川流域に分布する前期古墳					
	目的 (どうしたいか)		石川流域の前期古墳は、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の大型古墳を考える上で非常に重要な古墳である。これらの前期古墳の内容を把握して、本市の貴重な文化財として将来的には国指定史跡を目指す。					
	手段 (事業内容)		各古墳の測量や発掘調査を実施して、古墳の形状や規模、築造時期を把握して、文化庁や大阪府をはじめ関係諸機関と調整を図り、国指定史跡を目指す、保存や活用を図る。また、有識者から成る検討委員会の助言・指導に基づき調査を行っている。					

予算・決算額		(単位:千円)			《主な内訳(令和3年度決算)》	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 ・文化財調査委託料 845千円 ・測量委託料 500千円 ・写真撮影委託料 50千円 ・調査指導謝礼 48千円 【特定財源】 国庫補助金(壺井丸山) 707千円	
当初予算額	事業費	2,198	2,988	3,696		
決算額	事業費	1,669	1,536	—		
	特定財源等	598	707	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	石川流域の前期古墳の確認調査		単位	件
指標の説明	事業計画に基づいて確認調査を実施する。平成30年度以降は壺井丸山古墳の発掘調査を対象			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		1	1	1
実績		1	1	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	石川流域の前期古墳の調査成果の公表		単位	件
指標の説明	平成30年度以降は壺井丸山古墳の発掘調査を予定			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		1	1	1
実績		1	1	—

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事业である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
世界文化遺産に登録された古市古墳群であるが、その成立以前に当たる古墳時代前期には、石川流域に数多くの古墳が築かれている。これらの中には保存状態の良い古墳が存在し、歴史的に重要なものと評価されている。こうした石川流域の前期古墳を保護し、後世に継承するために国の史跡指定を目指して、各古墳の計画的な確認調査が必要である。古市古墳群のみならず、その前段階の古墳についても保全を図り、古市古墳群と一体的に整備・活用を図ることで本市の歴史的遺産としての価値を高める。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		631-01-03	
事務事業名		文化財指定・助成事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
				連絡先		内線4480	
担当部署名		文化財課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	10	教育費
	施策	3	歴史・文化		項	5	社会教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		目	4	文化財保存事業費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市内に存在する文化財					
	目的 (どうしたいか)	市内の文化財を適切に保護を行い、将来に継承していく。また、指定文化財等の公開や活用を積極的に推進する。					
	手段 (事業内容)	市内に存する文化財の価値を明確にして、文化財保護法、大阪府文化財保護条例、羽曳野市文化財保護条例に則って、文化財指定等を行う。また、指定文化財等の所有者に対して、適切な保存管理や公開・活用を行う一助として助成金の交付を行う。					

予算・決算額		(単位:千円)			《主な内訳(令和3年度決算)》	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 ・文化財保存事業費助成金 1,722千円 ・登録文化財所有者の会負担金 2千円 【特定財源】	
当初予算額	事業費	1,724	1,724	2,105		
決算額	事業費	1,724	1,724	—		
	特定財源等	0	0	—		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	文化財保護審議会の開催回数	単位	回
指標の説明	指定文化財について審議する専門委員会の開催回数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	2	2	2
実績	0	0	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	市指定文化財件数	単位	件
指標の説明	羽曳野市文化財保護条例に基づく文化財指定の件数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	1	1	1
実績	0	0	－

《事業の参考数値等》
国指定・登録文化財件数 28件
府指定文化財件数 13件
市指定文化財件数 22件
(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年度の事業実績に支障が出た)

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事业である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
本市には多種多様な歴史遺産が数多く存在しており、これらは適正な保護を図った上将来に継承していく責務を負う。これらの内、国や府によってその評価を受けたものは、それぞれ指定され保護されている。一方、これら以外で、羽曳野市の歴史を考える上で顕著な価値のある歴史遺産については、羽曳野市文化財保護条例に基づいて市において文化財指定を行っている。また、これらの指定文化財等の所有者については当該文化財の保護やその普及・公開・活用へも協力いただいていることから一定の助成金を交付している。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
コロナ禍のため、3年間文化財保護審議会開催が見送られてきたが、令和4年度以降については、感染対策を行い、リモート会議を活用しながら、事業実施を行う。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		631-01-04	
事務事業名		史跡等管理・保存整備事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
				連絡先		内線4480	
担当部署名		文化財課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	10	教育費
	施策	3	歴史・文化		項	5	社会教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		目	4	文化財保存事業費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市内に存在する史跡や歴史公園、また歴史的に価値が高く重要な遺跡等					
	目的 (どうしたいか)	我が国の歴史を理解する上で欠くことのできない史跡地等について、適切な状態で保存して、公開や活用を図る。また、歴史的に価値の高い重要な遺跡等の史跡指定を行い、公有化を推進する。さらに整備に向けての調整を図る。					
	手段 (事業内容)	史跡地等の清掃・除草作業、その他史跡等の維持管理に必要な事業を行う。また、歴史的に価値の高い遺跡の史跡指定や整備に向けての調整を行う。					

予算・決算額		(単位:千円)			《主な内訳(令和3年度決算)》	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 ・史跡清掃委託料 5,300千円 ・植栽管理委託料 770千円 ・史跡看視業務委託 131千円 ・その他経費 1,434千円 ・応神天皇陵古墳外濠外堤 79,702千円 ・白鳥陵古墳周堤 101,751千円 【特定財源】 国庫補助金 144,392千円	
当初予算額	事業費	58,490	190,573	86,502		
決算額	事業費	54,263	189,088	—		
	特定財源等	38,590	144,392	—		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	史跡等指定面積	単位	㎡
指標の説明	国や府指定史跡、遺跡公園等の面積		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	97,967	104,455	100,503
実績	99,223	100,503	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	史跡公有化面積	単位	㎡
指標の説明	国や府指定史跡、遺跡公園等の面積のうち公有化を行った面積		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	427	1,731	901
実績	427	1,893	－

《事業の参考数値等》	
令和3年度実績 史跡等指定面積 応神陵古墳外濠外堤 28,339.93㎡ 誉田白鳥埴輪製作遺跡 5,211.12㎡ 墓山古墳 44,264.60㎡ 峯ヶ塚古墳 11,189.14㎡ 白鳥陵周堤 2,698.98㎡ 通法寺跡 6,602.67㎡ 観音塚古墳 1741.25㎡ 庭島塚古墳 2,174㎡ 誉田史跡公園 150㎡ 翠鳥園遺跡公園 1,874㎡ 飛鳥千塚210㎡	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
我が国の歴史を考える上で欠くことのできない重要な遺跡等は、史跡に指定されている。本市では、応神天皇陵古墳外濠外堤をはじめ、多くの史跡や遺跡公園がある。これらを適正な状態で維持管理するために、定期的に除草や樹木剪定、清掃や看視業務を委託している。将来的には計画的に整備・公開を行っていき市民の憩いや学習の場に活用していく必要がある。また、指定史跡以外にも世界遺産の構成資産周辺については、一定の環境整備に加え発掘調査によって遺構等が確認された場合は積極的に保護を図ることとしており、史跡指定を含めた保全や整備活用の検討が必要となってくる。そのため令和3年度からは有識者による「古市古墳群保存活用計画」の策定を予定している。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		631-01-06	
事務事業名		文化財保管施設管理事務事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
				連絡先		内線4480	
担当部署名		文化財課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	10	教育費
	施策	3	歴史・文化		項	5	社会教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		目	4	文化財保存事業費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市内に存在する文化財整理事業及びその施設管理					
	目的 (どうしたいか)	文化財を適切に保管して、市民等に公開、活用するため、文化財の調査研究や整理事業を行う。また、その作業施設を適正な状態で管理する。					
	手段 (事業内容)	発掘調査で出土した遺物の洗浄、分類、注記、接合や復元、実測等の記録作成、図面や写真の整理、これらの保管作業を行っていく。また、その作業施設の適正管理も行う。					

予算・決算額		(単位:千円)			《主な内訳(令和3年度決算)》	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 ・光熱費 570千円 ・し尿汲み取り手数料 37千円 ・機械警備委託料 73千円 ・庁用器具費 471千円 ・防災設備保守管理委託 11千円 ・電話料 32千円 【特定財源】	
当初予算額	事業費	1,377	1,373	2,658		
決算額	事業費	1,215	1,281	—		
	特定財源等	0	0	—		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	修繕必要箇所数	単位	箇所
指標の説明	文化財資料の整理事業施設や保管施設における修繕必要箇所数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	2	1	1
実績	1	1	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	修繕終了箇所数	単位	箇所
指標の説明	文化財資料の整理事業施設や保管施設における修繕済箇所数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	2	1	1
実績	1	2	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事业である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 市内の発掘調査等で出土した遺物など市民をはじめ広く公開していくために、整理事業を効率的かつ円滑にしていける必要がある。		(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 現在の整理事業施設は、経年劣化をはじめ耐震にも問題があるため、施設の在り方を総合的に検討していく必要がある。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		631-02-01	
事務事業名		文化財等の魅力発信事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
				連絡先		内線4480	
担当部署名		文化財課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	10	教育費
	施策	3	歴史・文化		項	5	社会教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		目	4	文化財保存事業費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市民等(児童・生徒も含め)					
	目的 (どうしたいか)	本市の多様で豊かな歴史遺産の価値、魅力やおもしろさを知っていただき郷土愛を育む。また、歴史遺産を通し想像力や感性も養う。					
	手段 (事業内容)	児童、生徒や教員、ボランティアガイド等を対象にした出前授業や研修を開催する。また、生涯学習の観点から、現地見学や講演会等の開催やその支援に積極的に取り組む。					

予算・決算額		(単位：千円)			≪主な内訳(令和3年度決算)≫	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 【特定財源】	
当初予算額	事業費	0	0	0		
決算額	事業費	0	0	—		
	特定 財源等	0	0	—		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	職員派遣等協力依頼件数	単位	件
指標の説明	講師派遣、博物館学実習や学校授業等の協力依頼件数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	10	10	10
実績	6	12	—

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	対象人数	単位	人
指標の説明	講座や授業を受講した人数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	500	500	500
実績	300	300	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
（担当部局による総合評価の理由や課題） 本市の豊かな歴史遺産の特徴を、学校教育や生涯学習などあらゆる機会を通して十分に伝えていきたい。人類最古の時代から世界文化遺産に登録された応神天皇陵古墳、日本遺産に登録された竹内街道や現在に至るまで日本史の各時代を代表する遺跡や遺物といった多種多様な歴史遺産が存在している。他市等にはない本市のユニークな特徴を周知して、ひとつづくりやまちづくりに寄与したい。		（令和4年度以後の事業実施への改善内容）

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		631-02-02	
事務事業名		文化財の展示・公開事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
				連絡先		内線4480	
担当部署名		文化財課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	10	教育費
	施策	3	歴史・文化		項	5	社会教育費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		目	4	文化財保存事業費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	出土遺物や市内に点在する文化財、また文化財見学来訪者					
	目的 (どうしたいか)	本市の豊かな歴史的個性を体感してもらうために、本市内での発掘調査によって出土した遺物を展示・公開し、その充実を図る。また、市内に点在する文化財(遺跡や古墳、神社仏閣等)の理解や関心を深める。					
	手段 (事業内容)	本市の特徴的な文化財の展示や解説を行う。また、文化財の説明案内板の設置、多言語化を含めた整備を進める。					

予算・決算額		(単位：千円)			≪主な内訳(令和3年度決算)≫	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 【特定財源】	
当初予算額	事業費	954	0	0		
決算額	事業費	918	0	—		
	特定 財源等	0	0	—		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	展示ケース設置や説明板の整備箇所数	単位	台・箇所
指標の説明	出土遺物の展示保管、遺跡や古墳の説明板の設置整備箇所数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	3	0	0
実績	2	0	—

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	文化財展示室来訪者数	単位	人
指標の説明	文化財展示室の来訪者人数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	1,000	800	1,000
実績	591	909	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題) 令和元年度は百舌鳥古市古墳群が、世界文化遺産に登録されたことから来訪者数は増加した。昨年度よりコロナ禍の影響で来訪者が減少、今年度もその影響が続くと予想される。	今後の改善内容 (令和4年度以後の事業実施への改善内容) 今後コロナ収束を見据え文化財の展示や公開にかかるハード面の整備を推進し、同時に訪問者への適切な解説などソフト面の充実を図っていききたい。